

2021年8月期全塾協議会定例会議事録

2023年10月24日

全塾協議会

全塾協議会規約 第22条第1項に基づき、2021年8月25日に開催された全塾協議会定例会の議事録を公開する。ただし、役職役名ならびに条数は議会当時のものである。

議事概要記録

名称	2021年8月期全塾協議会定例会
場所	オンライン (Webex)
日時	2021年8月25日 19:00~22:21

出席者

上部団体	塾生代表	山田健太
	文化団体連盟三田本部常任委員会 委員長	松尾和真
	体育会本部 主幹	長谷川貴規
	全国慶應学生会連盟常任委員会 常任委員長	吉田凌太
	全塾ゼミナール委員会 委員長	大平莉緒
	四谷自治会 会長	保住英希
	芝学友会 会長	横山さくら
	福利厚生機関本部 代表代理	林田幸之助
	全塾協議会事務局 事務局長	岩館則明
	全塾協議会事務局より他8名	
以下議案提出者	應援指導部 代表	小畑采花
	應援指導部	中村剛太
	應援指導部 吹奏楽団会計	林大起
	應援指導部 定演会計	江下葵
	應援指導部 会計	坂本雄紀
	共済部 会計	中川和人
	法学部政治学科ゼミナール委員会 前委員長	湯浅翔平
	法学部政治学科ゼミナール委員会 前財務	宮澤瞭
	法学部政治学科ゼミナール委員会 委員長	渡邊夏蓮
	法学部政治学科ゼミナール委員会 財務	勝隆一
	卒業アルバム委員会 財務	相良葉子
	三田祭実行委員会 財務局長	秋山萌々音
	三田祭実行委員会 総務	中西誠也
	矢上祭実行委員会 財務	相良茉依
	湘南自治会準備会 委員	松浦竹之介

次第

項目	担当・議案提出者
1. 開会宣言	事務局長 岩館則明
2. 塾生代表挨拶	塾生代表 山田健太
3. 定足数確認	議事部長 在原拓哉
4. 配布資料の確認	
5. 議事録作成報告	
6. 議長の指名	
7. 議事	
(1) 塾生代表報告 [20210825-01-JSD]	塾生代表 山田健太
(2) 事務局報告 [20210825-02-JMK]	
i. 総務政策部報告	総務政策部長 清瀬竜世
ii. 財務部報告	財務部長 関田大輝
iii. 議事部報告	議事部長 在原拓哉
iv. 広報部報告	広報部長 堤悠真
v. 局長報告	事務局長 岩館則明
(3) 三田祭実行委員会の団体規約に関する報告 [20210825-03-MTI]	三田祭実行委員会 委員長 清水勝輝 総務局長 中西誠也
(4) 三田祭実行委員会の独自財源特別支出承認申請 [20210825-04-MTI]	三田祭実行委員会 委員長 清水勝輝 財務局長 秋山萌々音 総務局長 中西誠也
(5) 法学部政治学科ゼミナール委員会の交代報告 [20210825-05-HSZ]	法学部政治学科ゼミナール委員会 前委員長 湯浅翔平 前財務責任者 宮澤瞭 新委員長 渡邊夏蓮 新財務責任者 勝隆一
(6) 卒業アルバム委員会の独自財源特別支出承認申請 [20210825-06-SAI]	卒業アルバム委員会 財務 相良葉子
(7) 矢上祭実行委員会の独自財源特別支出承認申請 [20210825-07-YGM]	矢上祭実行委員会 財務 相良茉依
(8) 應援指導部の活動報告 [20210825-08-OES]	應援指導部 林田幸之助
(9) 應援指導部の再建活動についての議案 [20210825-09-OES]	應援指導部 中村剛太

項目	担当・議案提出者
(10) 應援指導部の独自財源特別支出承認申請 [20210825-10-OES]	應援指導部 吹奏楽団会計 林大起 チアリーディング部会計 茂田夕渚 定演会計 江下葵
(11) 全塾協議会事務局の湘南自治会の全塾協議会加盟申請 [20210825-11-JMK]	事務局長 岩館則明 湘南自治会準備会 委員 松浦竹之介
(12) 塾生代表の予算計画についての議案 [20210825-12-JSD]	塾生代表 山田健太
(13) 塾生代表の全塾協議会の基本政策に関する議案 [20210825-13-JSD]	塾生代表 山田健太
(14) 塾生代表の緊急執行に関する議案 [20210825-14-JSD]	塾生代表 山田健太
(15) 共済部の対面活動申請について [20210825-15-KSB]	共済部 会計 中川和人
8.連絡事項	議事部長 在原拓哉
9.閉会宣言	事務局長 岩館則明

議決事項

議案識別子	提出者	議案名	可否
20210825-01-JSD	塾生代表	業務報告	採決なし
20210825-02-JMK	全塾協議会事務局	業務報告	採決なし
20210825-03-MTI	三田祭実行委員会	独自財源特別支出承認申請	可決
20210825-04-MTI	三田祭実行委員会	団体規約に関する報告	採決なし
20210825-05-HSZ	法学部政治学科ゼミナール委員会	交代報告	採決なし
20210825-06-SAI	卒業アルバム委員会	独自財源特別支出承認申請	取り下げ
20210825-07-YGM	矢上祭実行委員会	独自財源特別支出承認申請	取り下げ
20210825-08-OES	應援指導部	活動報告	採決なし
20210825-09-OES	應援指導部	再建活動についての議案	採決なし
20210825-10-OES	應援指導部	独自財源特別支出承認申請	可決
20210825-11-JMK	全塾協議会事務局	湘南自治会の全塾協議会加盟申請	可決
20210825-12-JSD	塾生代表	予算計画についての議案	可決
20210825-13-JSD	塾生代表	全塾協議会の基本政策に関する議案	採決なし
20210825-14-JSD	塾生代表	緊急執行に関する議案	可決
20210825-15-KSB	共済部	対面活動申請について	可決

2023年10月24日 議事録作成(役職役名ならびに条数は議会当時のものである。)

(署名)

全塾協議会事務局 事務局長 岩館則明

全塾協議会規約第22条に基づき、事務局長の署名は省略する。

この議事録が正確であることを証する。

(署名)

塾生代表 山田健太

山田 健太

(署名)

全塾協議会 議長 横山さくら

2024年1月29日付で議事録を真正なものであると確認した。

議事詳細記録

1. 開会宣言

事務局長 岩館則明が開会を宣言した。

2. 塾生代表挨拶

塾生代表 山田健太が挨拶を行った。

3. 定足数確認

議事部長 在原拓哉による点呼により、定足数を満たしたことが発表され、本会の成立が確認された。

4. 配布資料の確認

議事部長 在原拓哉が、既に配布された資料の確認を行った。

5. 議事録作成報告

議事部長 在原拓哉は、先月から完成した議事録はない旨、また新しく 2021.5~7 月の議事録作成の割り振りを行った旨を報告した。

6. 議長の指名

議事部長 在原拓哉は、全塾協議会規約 第 10 条に基づき議長の選任方法を諮ったところ、横山さくらを議長に指名した。

7. 議事

(1) 塾生代表からの業務報告

塾生代表より下記の旨報告があった。今月は塾生代表と事務局を中心として予算折衝を行っており、例年よりも揃った予算に向かっている。また、K-Project の話を進めており、学生部の方と面談を行った。8 月は金銭に関するものが活動の多くを占めている。今後の方針は本定例会の 13 番項で詳しく話すつもりである。これらに加えて、9 月のリーダーズキャンプと予算関連の業務を行った。

(2) 事務局からの業務報告

i. 総務政策部報告

総務政策部長 清瀬竜世より下記の報告があった。

優勝準備委員会に人員拠出をした。また、新入局員の配属統括を行った。医学部スチューデントアンバサダーと協力して新型コロナワクチンサイトを制作した。事務局内資料を整理した。K-Project 全塾協議会加盟のための面談を行った。

ii. 財務部報告

財務部長 関田大輝より下記の報告があった。

決算書類と予算書類を回収した。予算折衝を行った。リーダーズキャンプの準備を行った。7 月の許可番号を発行した。二次監査を統括した。事務局予算作成を行った。2021 年度春自治会費の振込確認を行った。上部団体に一次監査の報告書提出を求めている。

iii. 議事部報告

議事部長 在原拓哉より下記の報告があった。

定例会の準備や式次第の作成、また日程調整を行った。リーダーズキャンプや交代関連、議案提出関連のメール対応をした。名簿メーリングリストの更新を行った。この議事部報告がされた時点では、登記書類が提出されている団体の更新が全て終わっていた。リーダーズキャンプの日程調整を行い、今年の日程を9/16~18に決定した。Webサイトに掲載する議案資料に関する説明と、Webサイトに掲載する性暴力に関する宣誓書と活動計画書の説明を行った。決議書を回収し、未提出者を洗い出した。登記書類が郵送で提出されているかどうかの確認を一通り終えた。未提出団体が多いため、リーダーズキャンプにて催促しようと考えている。

iv. 広報部報告

広報部長 堤悠真より下記の報告があった。

ポスター案の調整を行った。Webサイトを更新した。また、ワクチン体験談の投稿管理を行った。リーダーズキャンプにおける前室の準備を行った。

v. 事務局長報告

事務局長 岩館則明より下記の報告があった。

湘南自治会の加盟に関わる書類のチェックを行った。ワクチン情報サイトのサイト内容と広報内容を確認した。二次監査を行っている。K-Project加盟手続きの内容を詰めている。

最後に塾生代表山田が、上部団体に一次監査の報告書提出を求めている、という報告が財務部からあったが、二次監査でも数字が合わない場合があるため、内容のチェックと共に、全体の収支が合っているか否かも確認してほしいと、上部団体に対して求めた。

(3) 法学部政治学科ゼミナール委員会の交代報告

法学部政治学科ゼミナール委員会より交代報告が上程され、新委員長に渡邊夏蓮、新財務に勝隆一が就任した。

塾生代表山田はこれをすでに承認済みであると述べ、法学部政治学科ゼミナール委員会新委員長渡邊夏蓮と新財務勝隆一の双方にコメントを求めた。渡邊は「全力で頑張るので宜しくお願いします」と述べ、勝は「頑張るので宜しくお願いします」と述べた。

(4) 三田祭実行委員会の団体規約に関する報告

三田祭実行委員会より団体規約に関する報告が上程され、総務局長 中西が議案資料の解説を行った。

提出の遅れを詫び、昨年度の前夜祭より浮かび上がった意思決定の不透明性という問題も踏まえて規約を改正した、と述べた。具体的な内容として、内部監査人という立場の設置や、三田祭実行委員会内の組織体制を四つの局で構成すること、執行部を置き、委員長・財務局長・四つの局の長、電力管制部長で構成することを説明した。各団体の役割や責任については8条から39条で説明し、三田祭実行委員会の最終決定を行うのは委員長であると40条で明記、41条で月1での情報共有を行うと示し、会計につ

いては 42 条から 47 条で説明している、と話した。

上記の報告に対し、塾生代表 山田から、前提としてこれは三田祭実行委員会の規約であるのか、第 63 回三田祭実行委員会限定の規約であるのか、という質問がされた。中西はそれに対して、単年度組織であるため後者だと回答した。山田は、そうすると代を跨いだ時に規約が存在しない空白期間があるのではないか、と問うた。中西は、第 64 回に変われば、すぐに 64 回の団体規約を示すと述べた。すると山田は、団体規約が存在しない瞬間があるのは違和感があり、あってはならないことだと考える。48 条後半は無意味ではないか。細かいルールは細則で適宜定める団体が多く、私としては、三田祭実行委員会全般に使える規約が欲しい。単年度の団体とはいえ、同じ団体であり本質的な部分は変わらないのだから、前年度の責任は後年にも引き継がれるはずである、と話した。

続いて山田は、医学部や看護学部、薬学部が除外されている理由を問うた。中西は、この学部は研修があり、参加できないからである、と述べた。山田はその理由を受け止め、規約をもう少し一般化してほしいとまとめた。また、「本会」と「第 63 回三田祭実行委員会」が同時に存在し、統一されていない点の修正も求めた。事務局長 岩館は山田の言葉に賛同しつつ、毎交代交代の時期に規約を制定すると、毎回このように申請することになるとし、登録は代毎だが、全塾協議会の登記上は同団体として扱っているため、第〇回とは限定してほしくない、と述べ、三田祭実行委員会内での再考を促した。中西は、わかりました、と答えた。

議長 横山さくらは、他に発言を募ったが無かったため、本議案の審議が終了した。

(5) 三田祭実行委員会の独自財源特別支出承認申請

三田祭実行委員会総務局長 中西より独自財源特別支出承認申請が、以下の通り上程された。

	許可金額	申請時期	品名	支出理由	支出時期
1	215,000 円	事前	お車代	第 63 回三田祭の本部企画において出演するゲストのお車代。 算出基準：3 万円/人×6 名、3 万 5,000 円/人×1 名	2021 年 11 月
2	3,500 円	事前	贈答品費	第 63 回三田祭広報宣伝企画「Youtuber 企画」において、企画参加者への参加特典として抽選で 10 名に贈呈する Youtuber のサイン色紙及びその郵送費。 算出基準：サイン色紙(10 枚入り)¥1,000、郵送費(10 通分)¥2,500	2021 年 11 月
3	3,300 円	事前	贈答品費	第 63 回三田祭本部企画「アナウンサー発掘グランプリ(仮称)」において、企画優勝者に贈呈するトロフィー代。 算出基準：トロフィー¥2,600×1、購入送料¥700	2021 年 11 月
4	3,000 円	事前	贈答品費	第 63 回三田祭本部企画「慶音祭(仮称)」にお	2021 年 11 月

				いて、夜間野外ライブの演出・情宣のために来場者に配布する光るブレスレット代。 算出基準：光るブレスレット(200本入)¥3,000×1	
--	--	--	--	--	--

事務局長 岩館は、質問がある場合、本日三田祭実行委員会財務局長の方がすぐに回答できないため、後で伝えることになる。もし質問があれば、それを受けたあと、次の議案に移り、回答が準備出来次第、本議案に戻るよう進める、と説明した。

塾生代表 山田は、中西に対し、今年の三田祭の開催形態や現状について、議員に説明するよう促した。中西はこれに応じ、昨年とは異なり、キャンパスでの開催を企画しており、来場者 5000 人までとし、チケット制である。塾生が優先だが、余れば一般にもチケットを提供する。三田祭実行委員会が三田祭を運営し、団体がパフォーマンスする、という開催形態である、と説明した。山田は、直前に緊急事態宣言などがあった場合はキャンパス開催が難しくなるが、中止やオンラインでの開催となったときに、赤字にならないか、またゲストなどはシームレスに対応できるのか問うた。三田祭実行委員会総務局長中西は、わからないため一旦質問としたい、と回答した。続いて塾生代表山田から、オンラインになっても、ゲストを呼ぶことでマイナスになる可能性はどれくらいか、どのような対策を練っているのか、という質問が投げかけられ、「第 63 回三田祭本部企画におけるゲストのお車代」が一人だけ 5000 円高い根拠と、その「お車代」を 35000 円とした算出根拠についても、問いかけがされた。

また、議長 横山が、オフライン開催であるときの例年の来場者数を問うた。これに対し中西は、20 万人であると回答した。これに対し議長 横山は、今年は結構減るのだ、と反応し、議決はのちに回すとした。

四番項から戻り、本議案の審議が再開された。

中西は、ゲストの契約について、ゲスト側にキャンセルになる可能性や出演方法が変わる可能性を示し、それを了承した者をゲストとする。また書類作成を弁護士に依頼する、と回答した。加えて、車代が 35000 円であることについても、前に出した算出基準をもとに今回も算出したと述べ、ゲストの実績金額を参考にしたところ高い方で 5 万円であり、企画費を半分に抑えた今年は、車代も半額にした。万一、オンラインであれば企画がほとんどなくなり、企画代は 1 万前後となる。車代はオフライン時のみに算出される、と説明した。山田は、心配しているのは、オンラインになった際に収支が釣り合わず、マイナスになることである、と発言した。これに対し中西は、予算についてはオンラインになった場合にも赤字にならないようマネジメントしていると回答し、山田は、それであれば大丈夫であると答えた。

全塾協議会はこれを全会一致で可決し、塾生代表 山田健太は本決議を承認した。その際、山田は、オンライン・オフライン開催か、修正事項があるのであれば 9 月期定例会までに伝えてほしい。車代はもう少し安くなるのではないかと発言した。

(6) 卒業アルバム委員会の独自財源特別支出承認申請

卒業アルバム委員会財務 相良葉子より独自財源特別支出承認申請が、以下の通り上程された。

	許可金額	申請時期	品名	支出理由	支出時期
1	5,850 円	事後	飲食費	引継ぎ業務の際の食事代として(前年度会	2021/3/21

				計)。 支払先：株式会社サイゼリヤ本社	
2	2,580 円	事後	発送費	卒業アルバム発送のため。 支払先：慶應義塾生活協同組合 三田購買部	2021/5/25
3	638 円	事後	消耗品費	卒業アルバム財務処理のため。 支払先：オーケー株式会社	2021/8/6
4	830 円	事後	発送費	卒業アルバム財務処理のため。 支払先：ファミリーマート	2021/8/8

塾生代表 山田は、支払先の一つである「株式会社サイゼリヤ本社」が普通のサイゼリヤであり、そこで業務を行ったかを尋ねた。相良は、前年度の話であるため、詳細は不明だが、引き継ぎ業務でサイゼリヤを使用したらしい、と回答した。山田は、2021年3月21日には、活動するには大学側への申請が必要であったか、それならば申請を出したか問うた。これに対して事務局員 関田は、必要であったと回答し、相良は、申請の事実確認ができていないと答えた。

山田は、時間が押していることを鑑み、本定例会での決定する必要性を事務局員に尋ねた。事務局長 岩館は事後申請であれば、次の定例会に回すことも可能であると答えたが、関田は、システム上、来月の定例会での決議になると減点数が増える可能性もあるため、本定例会で②と③のみを承認し、3月の話である①は来月に回すことで減点数を減らす、というやり方を提示した。

山田は、「OK 株式会社」は OK ストアであるか確認した。相良は、そうだが、前任者が購入したため内容はわからない、と答えた。山田が、交代のタイミングを問うたところ、相良は、4月締めであるため5月に交代しているが、銀行とやり取りする機械が前任者のもとにあるため前任者が財務管理を行っており、何に使用しているかは不明である、と述べた。関田は、自身が8月10日に卒業アルバム委員会から前年度の決算書類を郵送で受け取っているため、クリアファイル代であると、推測した。これに対して山田は、それはそうとして、①はこの場で承認できない。引継業務をサイゼリヤでやるのは個人情報の取り扱いとして良くないのではないか。食事代として、と書いてあるので、業務上のものだとよくない。早急に事実確認をお願いしたい、と述べた。また、関田は、そもそも②③は特別支出ではないため、承認不要であると説明した。山田は、①は問題であり、9月期定例会を待つことなく共有すべきである。②と③は不要であるため、キャンセルとする。①は本日中の事実確認が不能であるため、全体として本件はパスすると発言した。また、山田が③の事実確認がいつまでにできるか尋ねたところ、相良は今週中に可能であると回答したため、山田は、金曜日までに事務局に報告し、事務局が自身の方に連絡し、その後、卒業アルバム委員の皆さんと話し合うことにする、と説明した。横山が保留に反対する人はいないか確認したところ、いなかったため、次の議案に移った。

本議案は取り下げられた。

(7) 矢上祭実行委員会の独自財源特別支出承認申請

矢上祭実行委員会財務 相良 菜依より独自財源特別承認申請が上程された。相良は、特別支出の見通しが未だ立っていないため、来月の承認を予定し、本定例会では決定しているところまで報告すると述べた。事務局長 岩館が支出時期を尋ねたところ、相良は9月前半だと答えた。これに対し岩館は、余裕を

もって余裕のある金額で特別支出承認を行いたいため、本日でよいと発言した。

	許可金額	申請時期	品名	支出理由	支出時期
1	60,000 円	事前	交通費	各企画撮影場所への移動費、学校入校のための移動費	9 月前半
2	10,000 円	事前	飲食費	飲食店紹介企画の動画撮影のため	9 月前半

また、同時に相良は、一つの局で二つの案を出したが、片方がなしになったため、第二項目の 100,000 円を 60,000 円に変更する、と述べた。山田は、第一項目について、矢上から日吉の移動費用ではないことを確認しつつ、委員全員が定期を不所持であるという推測からこの金額を算出したのかを尋ね、矢上祭当日も集まるらしいが、その交通費も入っているのか、と質問した。相良は、各自の自宅から日吉への移動の際にかかる交通費である。全企画において皆が集まるわけではないが、今のところそのような企画もある、と回答した。山田は、なぜ交通費を出すのか、レギュレーションがクリアではない、と指摘した。相良は、皆から交通費を訊き、再度提出すべきか尋ねたが、山田は、それだと報告が来月になるとして、岩館に可能か質問した。岩館は、把握している範囲で構わないので、本定例会内で許可額を提示してほしいと答えた。山田は、6 万円で交通費が収まるか確認したところ、相良は、未だ決定していない企画もあり 6 万円で交通費が収まるか答えられない。超えた分を事後申請しようと考えていた、と回答した。

山田は、結局事後申請も利用するつもりであるのなら、本定例会で予算を決定する意義はない、と発言し、他の議員に意見を求めた。体育会本部主幹 長谷川は、山田の意見に賛同した。事務局員 関田は、事前申請が好ましいが、結局事後申請をする予定ならば、全てわかったからで良いと思う。ただ、金額のおおよその範囲は話しておくべきだ、と発言した。これを踏まえ、山田は、事後申請をするのであれば、事前申請の必要性が薄まる、と話し、相良に対し、ざっくりここまで収める、という考えがあるのか、できる範囲で企画してほしいと発言した。相良は、第一項目を 8 万円以内に収め、第二項目を 10 万円ではなく 6 万円とする、と回答した。山田は、動画は世界中に証拠を示すものであることを指摘し、飲食関係はリスクマネジメントをするよう求めた。相良は、これを受け、各企画に伝えると答えた。山田は、第一項目を 8 万円、第二項目を 6 万円とし、承認は来月にするとまとめた。岩館は、今回は特異なケースであり、今後はきちんと事後申請するよう求めた。山田が、当月において矢上祭実行委員会に減点が与えられるのか尋ねたところ、関田は、当月と翌月はともに減点がないと答え、事前申請である前提は変わらないが、緊急の支出はあると考えられるため、事後申請も可能であるとしている、と説明した。山田は、ルールに改善の余地がある。それについては今後話したい、と発言した。

本議案は取り下げられた。

(8) 應援指導部の活動報告

應援指導部 林田より活動報告が、以下の通り行われた。

一つ目に、チアリーディング部、吹奏楽団ともに先月同様、対面練習を継続している。部長による医学的見地に基づいた感染症対策を徹底し、チアリーディング部、及び應援指導部員・旧リーダー部員は二班体制より一班体制となった。

二つ目に、執行部会、定例会、及び役員会の実施を行った。再建期間を経て、應援指導部では毎月全部員で決める必要がある項目を執行部会にて整理した上で、定例会で全部員の意見の吸収、及び賛否を議

案に対してとっている。その後、部長、コーチに役員会の場で報告している。以上を通常通り実施した。

三つ目に、慶應義塾中等部の体操部へのダンス指導を行った。慶應義塾中等部の体操部より依頼を受け、チアリーディング部の一部部員でダンスを指導した。具体的には、ストレッチ、筋力トレーニング、アームモーション、及びアクロバットの指導を行った。

(9) 應援指導部の再建活動についての議案

應援指導部 中村より再建活動について下記の通り説明した。

中村は、再建活動に伴う情報の出し方に関して意見を聞きたい。内容については今まで説明したことをまとめ、ほとんど完全版である。ここで意見を賜り部長の先生に確認してHPで公開しSNSで共有する予定である。まず初めに再建活動に至った経緯を説明している。不適切な事実があったことを部として認定し、独自の処分を行った。その後、全塾の処分を受けた、等の流れが書かれている7月期全塾協議会定例会に提出した内容も含まれる。また、情報開示に関してアプローチを追加した。7月期全塾協議会定例会で話したように全塾協議会の処分案が緩和なり撤廃なりあれば即時に活動を再開ということは考えていない。様々なところと協議を重ね今後について部の役員会で意思決定していく。最終的に意思決定をする場所は部の役員会だと規約に書かれている。情報発信の内容手段等にご意見ある方がいれば聞きたい、と述べた。

塾生代表 山田は、一点目に、前回の定例会の際に出た、不祥事の再発防止についてどれがどう繋がっているのか、という質問に対してどこを改善がしたのか。二点目に、どのような経緯で自主的に活動の停止に至ったのか、書かないとわかりづらい、と発言した。中村は、一点目については、例えば課題を分解して改善点を書き出した部分など、各項目のそれぞれに含まれている。また、外部の方に視察してもらおうという記述部分もそれにあたる。二点目は、おっしゃるとおりであるため文章を付け加えて再提出する、と回答した。

議長 横山は質問を募ったが出なかったため、続けて、意見の発信の方法やタイミングはどう決めているのか質問した。中村は、今この場で頂いた意見を踏まえ、文章を再考し、全塾協議会の処分緩和のタイミングで、HP上で発信する予定だと答えた。

体育会本部主幹 長谷川は、現状のもので良いと思う。情報発信のライン引きに関して、私は良いと思うが、個人差もあるので他の人の意見を聞きたい、と発言した。文化団体連盟三田本部常任委員会委員長 松尾は、情報発信の方法等に関して、異論はない。内容に関してはもう少し考えた方が確実だと思う、と発言した。全国慶應学生会連盟常任委員会委員長 吉田は、他の方と同じ意見だが、山田の述べた二点目は、私も引っかかった、と発言した。全塾ゼミナール委員会委員長 大平は、個人的な異論はない、と発言した。芝学友会会長 横山は、発信はSNSとHPで行い、SNSについては一年の中で何度も発信することが大事である。質問だが、二つ目の資料の5ページ目の再発防止策の設定の部分の中身がないのではないかと発言した。中村は、最後のページに掲載している、と回答した。

中村は、皆さまの意見に関して内容の根拠について詳細に説明させていただくと、ここに書かれていないものとして名前等があるがこれは常識を考えて記載していない。どのような人がどのような処分を受けたかや、学校側から受けた処分に関しては言及すると二重罰になってしまうため、リスクとなる個人の特定につながるものは記載していない。学校による処分は、学校側も発表していないため、應援指導部から言及することは避けている、と発言した。

議長 横山は、質問を募った。事務局長 岩館は、議長 横山も言っていたが、何度もSNSで発信する

のは重要であり、発表とタイミング・時期・回数については複数回にし、多くの人の目に触れるようにするのが良い。結局、この書類の中でどのような改善を示しているかが信頼回復につながると思う。

「不適切な行動」は今までも出てきた言葉である。「週刊新潮の〇月に書かれていた」などの形で行為の内容を掲載、言及するべきである。また、調査は全塾協議会や大学も行っているため、應援指導部だけが調査したという印象を与えかねない文などで誤解を招かないようにしてほしい。リーダー部の解散も全塾協議会の処分の範囲であるため、その点でも誤解のないよう書いてほしい、と述べた。山田は、SNSの複数発信については、団体でフレキシブルにやってもよいのではないかと。内容については、具体的なものとそうでないものの差によってわかりづらく、文章として読みづらい。何に対してどのような対策をしたのかを、もう少しロジカルにわかりやすく書くべきである。例えば、会計上着服していた、というものであるならば、このような対応策は不適である。應援指導部内で問題の分解を行っているはずであるため、この出来事に対してこの対応策、とわかりやすく改善すれば、後半は良くなる。「不適切な行動」という記述についてだが、プライバシーについて聞きたいとは思わないが、名指しなど詳細に書いたところで二重処罰に当たらないと思う。人数についても、「複数人」とすれば良い。提案だが、名指しはしないが不適切な事象について並べてみるとこうなる、というものを原案と並べてみないと、どの部分まで書けば二重処罰となるかわからないため、皆さんでそのような新しい案を作成し、議員と塾生代表と事務局長といった限定された場所へ共有し、二重処罰に関する議論をしたうえで判断をしたい。ものがないと建設的な議論ではない、と発言した。中村は、具体と抽象に関してはご指摘の通りだと思うので、区別できるよう改善する。二重処罰の意見に関しては概ね同意しているため、一度持ち帰り、部長・コーチ等と話し合い、改めて作成する、と回答した。山田は、無関係ながら割を食っている人もいるのが事実であるため、持ち帰ったうえで方針が決まり次第事務局へ共有してください。こちらで議論して再度返す、と発言した。中村は、処分の処遇に関して、進捗であったりタイミングであったり等、聞けることはあるか尋ねた。山田は、ステークホルダーや議員に話を聞く中では、最もネットになっているのがこのまま「不適切な行動」というままで良いかというところである。これで良い、という意見がありつつも、どちらかに決まっていない状態である。先ほど提案したことがスムーズに出れば、判断も早くできる。情報発信については、現在の方針でOKである、と回答した。中村は、迅速に対応する、と答えた。

議長 横山は、他に意見を募ったが、出なかったため、本定例会における本議案は終了した。

(10) 應援指導部の独自財源特別支出承認申請

應援指導部より、独自財源特別支出承認申請が上程された。

<吹奏楽団会計>

	許可金額	申請時期	品名	支出理由	支出時期
1	¥220,500	事前	9月分コーチ代	技術向上、及び安全の為のテクニカルコーチ代として	2021年10月
2	¥264,000	事前	10月分コーチ代	技術向上、及び安全の為のテクニカルコーチ代として	2021年11月

3	¥234,000	事前	11月分コーチ代	技術向上、及び安全の 為のテクニカルコーチ 代として	2021年12月
4	¥16,000	事前	熱中症対策代	部活動中の熱中症対策 の為の飲食代として	2021年9月～12月
5	¥150,000	事前	体調不良部員搬送のための タクシー代	体調不良部員搬送のため のタクシー代として	2021年9月～12月
6	¥120,000	事前	CDE Cheerleading Championship2021の参加 費用	CDE Cheerleading Championship2021に出 場する為	2021年9月～12月

應援指導部吹奏楽団会計 林は第一項目について、812円としたが、3円のレジ袋代も支払ったため、この場合は815円になるのか質問した。事務局員 関田は、特別支出の対象のみの申請でよいため、812円で正しいと答えた。

林は第二項目について、今年度は氷は対象外であるようなので、修正、つまり氷の記述を無くす必要があるか、と尋ねた。関田は、対象外であるのは冷却剤としての氷であり、飲食のための氷であれば対象である。ゆえに今回申請された氷は対象として事前申請をして良い、と答えた。山田は、多めに申請するのは良いと思うが、それほどまでに体調不良になる部員が多いのか質問した。林は、チアリーディング部の練習場所が食堂や屋上であり、毎回体調不良になる部員が出ていると回答した。山田は、それは問題であるとし、改善する予定があるか尋ねた。林は、扇風機などを追加購入し、熱中症対策を行っている、と答えた。事務局長 岩館は、食堂棟の三階部分を使えるように学生部と話していると思っていたが、どうか尋ねた。関田は、屋上で活動を行っているが、休憩場所として冷房の効いた部屋を貸している、と発言した。山田は、塩分タブレットや扇風機は根本的解決でない。解決の仕様がないうのなら、その理由を出してほしい。大学に何らかのお願いをするレベルである、と話した。また、CDE Cheerleading Championship2021の参加費は、部費として集めるのか、それとも出る部員に負担させるのか尋ねた。應援指導部 小畑は、正確な情報がわからないとし、茂田に確認し、正確な情報を後ほど伝える、と回答した。本定例会中には答えられなかった。

<定演会計>

	許可金額	申請時期	品名	支出理由	支出時期
1	¥49,980	事前	電車代	定期演奏会エキストラの交通費代として	2021年9月～12月

塾生代表山田は、事前申請か、また細かい額を算出しているのかを尋ね、應援指導部定演会計 江下は細かい金額を算出しているためだと回答した。

全塾協議会はこれを全会一致で可決し、塾生代表 山田健太は本決議を承認した。また、塾生代表山田は、CDE Cheerleading Championship2021の参加費は、部費として集めるのか、それとも出る部員に負担させるのかわかり次第、事務局に報告するよう発言した。

(11) 全塾協議会事務局による、湘南自治会の全塾協議会加盟申請に関する議案

事務局長 岩館は、湘南自治会から全塾協議会への加盟について申請があった。一点目は、湘南自治会憲章であり、三田祭で出されたものと似たようなものである。二点目は、2021年度湘南自治会準備会決算報告書であり、7月までのものである。三点目は、二点目の報告であり、減点数は200点で適切に処理していると認める。四点目は、三点目の内訳であり、決算書類のミスがあったが、大きなミスはなかった。財務管理が完璧とは言えず、財務管理の手引きに基づいて向上していただきたい。五つ目と六つ目は事業計画書と、今後の資金の運用方法である、と説明した。その後、湘南自治会の担当が説明するよう、促した。

湘南自治会 松浦は、事業計画書の2022年度予算案が本定例会において必要であるか尋ねたところ、岩館は、2022年度予算案についてはリーダーズキャンプで取り扱うため、本日は2021年度のみで良いと回答した。

松浦は今後の事業計画について、5年から10年の間に達成したい長期計画としては、湘南藤沢キャンパス生に必要とされる存在になることや、キャンパスの意思決定について何らかの形で関与するための実績と立場を得ること、学生の活動の責任主体としての機能を得ることである。短期目標としては、サークル部会の設立や、学生部との常設の連絡体制を構築すること、等である。今後継続していくために、事務執行の分離を行っていく予定である、と説明した。また、松浦は続けて、2021年度予算案はSlack代及び予備費1万円である。予算折衝の結果、支出の半分を占めている生理用品の配布に関しては新規助成金を用いることになった、と話した。

岩館は、これまでの活動に関しては議員も毎月確認していたと思うが、湘南自治会から、過去の活動に関して何か説明はあるか尋ねた。松浦は、コロナ禍において、オンラインで行える支出の少ない活動に専念した。例えばファイナルプレゼンテーションや研究会網羅プロジェクトなどである、と話した。岩館は、湘南自治会の全塾協議会加盟に関して、判断していただきたい、と発言した。

塾生代表 山田は、加盟団体は必要に応じて増やせばよいと考えているが、一方で長期計画においてパワーを得ることしか書かれておらず、理由がわからない。口頭での説明だと理解できるが、書面上ではどこに記載されているのか、と発言した。松浦は、ある種、その役割は自明である。今まではインフォーマルな関係で行われてきたところをフォーマルなものにする、というところである。活動計画という関係上、かけていない部分があるとは思っている、と答えた。山田は、誤解のないように、明確にその理由を記載してほしい。私は加盟に反対しているのではなく、本定例会で提示した書類の内容だと単に力が欲しいだけのように見え、誤解が生まれてしまう可能性がある、と話した。松浦は、実質的に福利厚生を向上するために必要になる、というところを説明し、改善に努める、と回答した。

議長 横山は各議員に意見を訊いた。文化団体連盟三田本部常任委員会委員長 松尾は、普通に加盟していただいて良いと思う、と答えた。体育会本部主幹 長谷川は、松尾同様、特になし、と回答した。全国慶應学生会連盟常任委員会委員長 吉田と全塾ゼミナール委員会委員長 大平はどちらも、特になし、と答えた。福利厚生機関本部代表 林田は、反対意見はなく、学校側と協力して良い組織になってほしい、と話した。芝学友会会長 横山は、湘南自治会が特に学校の意思決定に積極的にかかわっていきたいという考えが大きいと思うが、大変だと思う。同じ立場でそのようにする、というのが難しい、というところは当団体でも課題となっている。進捗があればご教授いただきたい、と発言し、議決に移る、と述べた。

全塾協議会はこれを全会一致で可決した。塾生代表山田は本決議を承認し、議員権を獲得できるような

団体なので頑張っ、しっかりと活動実績を積んでほしい、と発言した。

(12) 塾生代表の予算計画についての議案

塾生代表 山田より、予算計画についての議案が上程された。山田は、少し昔の全塾協議会では、優勝準備委員会に関してリーダーズキャンプなど関係なしに口座の金額に応じて交付額が自動的に決まっていた。4回分の優勝に対応できるように交付計画が設定されていた。しかし、時勢も鑑み、適宜修正しても良いのではないか、という話を優勝準備委員会とも行った。一旦取り消し、再考しようと思っている、と発言した。議長 横山は、提示された資料が2018年1月期に可決された計画書であるか確認したところ、山田は、その通りであり、これが昔のものである、と回答した。横山は、これを破棄して、毎年新しいのを考えるのか尋ねた。山田は、とりあえずこれを一旦取り消し、リーダーズキャンプも迫っている、リーダーズキャンプで審議する形、もしくは別の枠組みを作った上で進めたい、と答えた。優勝準備委員会 堤は、補足として、交付計画書の計画を破棄していただきたい。現時点で最低額の320万円は確保できている、と発言した。

ここで事務局員 関田が、四谷自治会会長 保住が本定例会に途中参加していることを伝えた。山田は、保住も本議決の際に票を投じるか尋ねた。事務局長 岩館は、現時点で出席しているのならば含めてほしい、と発言した。山田は、保住がまだチャットに出席している旨を記載していないため欠席の認識とする、と話した。

全塾協議会はこれを全会一致で可決し、塾生代表山田は本決議を承認した。

その後、四谷自治会会長 保住英希が参加した。

(13) 塾生代表の全塾協議会の基本政策に関する議案

塾生代表 山田より、全塾協議会の基本政策に関する議案が上程された。

山田は、一つ目に今後の方針について説明した。全塾協議会が協議会として力を発揮していくためには、より密な連携が必要だが、現状残念ながら、互いの団体の活動内容がよくわからない状態ではないか。例えば全国慶應学生会連盟のイベントに体育会本部や芝学友会の参加があるなどの体制が重要である。特にイベント周りについて、互いに協力をしていただきたい。例えば体育会本部は取材費と称して、体育会の活動を外部に発信し、それを各団体が内部にシェアするのはどうか。全国慶應学生会連盟のイベントに他の団体の議員も参加するなど、全塾協議会としてより活躍していきたい、と発言した。

また山田は、二つ目にお金を使って情報の面をもう少し担保したい、と発言した。現状様々な案内がKeio.jpを通じて得られるが、メールでしか共有されていない。これを解消するため、慶應生専用のアプリを作ることができれば良いと考えている。機能としては、時間割が見えたり、Keio.jpのNewsが見れたり、スマホのトップ画面でプッシュ通知を設定できたりするものである。50~100万で作成できれば良いと思う、と説明した。

さらに山田は、三つ目に、SFCからも説明があったように生理用品のプロジェクトに頭出しをしたい、と発言した。女性の方は周期的に生理という現象が起きるが、その生理用品について金銭的な負担がかかる。必要な時に持っていないということも起こるそうなので、必要な方などに配る。ただし、最初は全塾協議会負担で実験的に行いたく、新規事業として処理したい、と説明した。

続けて山田は、四つ目として災害対策費を求める、と発言した。現状活動している部室があまり安全な場所ではない。これは大きな問題となっておらず、いわゆる「倉庫」のような部室はそれほどフォーカス

しないが、活動しているところ、例えば全塾協議会や上部団体は書類が多く棚も多いので地震が発生すれば倒れる可能性がある。団体が積極的に支出するわけではないので、突っ張り棒などの補助を全塾協議会事務局負担で行う、と説明した。

最後に山田は、以上を含めると多くの額が動くが、少なくとも単年度として動くことは可能である。余裕のあるうちに動きたく、議員の方のご意見を伺いたい。と発言した。

文化団体連盟三田本部常任委員会委員長 松尾は、お金の使い道や三つ目と四つ目については疑念はない。二つ目については、LINE やペンマークでも良く、新しいアプリを作る必要性を感じない。むしろ通知に関しては LINE のほうが見るのではないか。確かに一元化するとなるとアプリが適切だが、疑問は残る。塾生への情報発信の点では評価に値する、と発言した。

体育会本部主幹 長谷川は松尾の意見について考慮いただければ賛成である、と発言した。

全国慶應学生会連盟常任委員会委員長 吉田は、二つ目のアプリ開発は誰が行うのか、と質問した。山田は、誰がというのは考えていなかったが、しっかりしたものを作らねばならないと ITC と話していた。中途半端に少しずつ資金を支出するより、正式な企業に依頼した方が、コストが下がり良いと考えている、と回答した。吉田は、三つ目について、生理用品のプロジェクトの期間と、是非の判断の仕方はどうするのか尋ねた。山田は、可能ならば秋学期にもデータを取りたく、明日に学生部と話してセッティングしようと思っている。アンケートについては、設置場所の付近に QR コードを設置する予定であり、必要性を感じるならアンケートに答えてくれると考えている。学部生や職員を対象とするのだと考えると難しいが、署名のような形でフォームを用いて、何票ほどか、また感想の内容、コストに見合っているか、ということを見て、そしてその後に拡張するか考えていく。2022 年度春から積極的な実験を行いたい、と答えた。福利厚生機関本部代表 林田は、松尾の意見とほぼ同様であり、三つ目に関しては実際に使用する方の感想も大事である。実際に使われないということになると無駄であり、かつ他人の目を気にせずに受け取れるなどの使いやすい環境を構築することが大事だと考える。二つ目はペンマークなどのアプリで代用できる。ペンマークはハーゲンダッツの配布などでやっと顧客を獲得していたので、新たなアプリを作るのは大変ではないだろうか。LINE のアカウントにしたほうが良いと考える、と発言した。山田は、SFC は小規模であり、実験に使える。また SFC の中に、特別な部があるので、そこと連携していきたい。私は生理用品を使わないため当事者の意見を聞きたい。アプリについてはオフィシャルなものがない、と回答した。

四谷自治会会長 保住は、全て良いと思う。アプリの代わりに LINE を使う場合、加速度的にお金がかかるため、長短を考え、学生部との連携も考慮して、頑張ってもらいたい、と発言した。山田は、持続的にお金がかかるので LINE は断念したというのを思い出した。試算を後日出す。学生部もかなり協力的である、と答えた。

事務局長 岩館は、お金をかける部分は余剰金もあるので大丈夫である。生理用品の配布も人員を動かすことが可能なようだ。災害対策も大事である。ただ、プラットフォームを作っても、それぞれマンパワーが必要になってくるがどのような見通しであるか、と尋ねた。山田は、生理用品については当面の間、湘南自治会が協力してくれる。備品については、希望を団体から出してもらい配布する。配布くらいなら学生生活部の協力を得られるという話がある。一つ目に関しては、継続的な委員会のさらなる設立が必要だと考えており、できるだけ自動化するつもりである。毎週活動する必要がある、学内のメディア団体に協力を求める予定でもある。スポンサー等も考慮したうえで妥当性を考えていきたい。良い方法を生み出したい、まずはお金をかけず需要を見るために、小規模でプラットフォームを整備したいと考えて

いるが、現実的な構想は練られていない、と回答した。

芝学友会 横山は、アプリに関する問題点は他の方が明らかにした。学部が違っていると情報も異なるためアプリを作るなら、そこを考慮してほしい。塾生全員の利用を目標とするなら情報量が大事である。生理用品に関しては、あると便利だと思う。なかった場合、友達に借りたり、保健室に駆けこんだりすることがあったが、トイレにあると便利である。カラオケなどの店には実際に置いてある。人によってはこだわりがあるので、緊急用にあると便利だと思う。配布よりは常設の方が良い。アンケートを実際に取ってみるのが大事だと思う、と発言した。山田は、アプリが一番もろいと考えている。人的コストも含めたうえで現実的なコストを考え、実験段階ではお金をかけない方向で動いていきたい。生理用品と備品に関しては、概ね賛同いただけだったので進めたい。いわゆるジェンダー平等が最近強く訴えられているが、男女の支出を平等化するため多様性を認める大学だからこそ、そのような部分にも迎合したい。具体的に決まれば再度共有する、と回答した。

ここで岩館は、第3番項の卒業アルバム委員会から連絡が来たため、後に共有する、と発言した。

議長 横山は質問を募ったが、無かった。横山は続けて、不平等の改善のために生理用品を配布する、というのは根本的解決にはならず違和感がある、と発言した。これに対し、山田は、後で話しを聞くかもしれない、と答えた。

(14) 塾生代表の緊急執行に関する議案

塾生代表 山田より緊急執行に関する議案が上程された。申請内容は、共済部の対面活動禁止期間における決算書類提出のための対面活動承認申請である。山田は、事務局宛のご相談である、と発言した。事務局員 関田は、緊急執行は承認が必要であると回答し、共済部財務 中川は特に言うことはない、と話した。山田は、中川に対し、書類提出後、すぐに帰ったのか尋ねると、中川は、そうだと答えた。議長 横山は、確認だが、今回申請があったのは先々月あたりに交流会のような会食の不祥事があったからか、と質問し、中川はそうだと回答した。

全塾協議会はこれを全会一致で可決し、塾生代表 山田健太は本決議を承認した。

(15) 共済部の対面活動申請に関する議案

共済部中川から、対面活動であるリーダーズキャンプに参加するための、対面活動申請が上程された。全塾協議会はこれを全会一致で可決し、塾生代表 山田健太は本決議を承認した。

8. 連絡事項

議事部長 在原より次回全塾協議会について、9/26（日）18:30 からオンラインで行う予定であり、詳細は明日に送る。決議書は、明日の午前にフォーマットを送るため、8月中に回答してほしい、と伝えられた。また事務局財務部長 関田は、四谷自治会と芝学友会以外は 8/31 が締切である一次監査報告書がまだ提出されていないため提出してほしい。この後に、リーダーズキャンプの説明会を zoom で行う、と説明した。山田は、今回のリーダーズキャンプでは写真を撮るため、広報用に撮られても良い格好で来てほしいと発言した。

9. 閉会宣言

事務局長 岩館則明が閉会を宣言し、22:21 に閉会した。